

23. 妙光寺・文殊院

(1) 妙光寺

宗派：日蓮宗 山号：本圀山 本尊：一塔兩尊

創建は文永2年（1265年）鎌倉幕府御家人、横山遠江守勝光と由井但馬守国光の2人が日蓮上人の直弟子中老僧一乗阿闍梨日門上人を招いて開山したのが始まりとされ、常陸国最初の日蓮宗の古刹です。

当初は水原にありましたが鎌倉時代の後期の正応3年（1290年）中道院日正上人が現在地に移し中興しています。

その後一時衰退しましたが江戸時代に入り水戸藩から庇護され客殿、本堂、法華三昧堂が再建されています。現在の本堂は寛永年間（1624～1643年）に再建されたもので入母屋、銅板葺、平入、桁行6間、梁間7間、正面向拝付き。法華三昧堂は江戸時代後期に再建されたもので三間四面、宝形造、瓦葺、正面には徳川光圀公直筆の書が掲げられています。当時の御堂建築の遺構として貴重なことから昭和51年（1976年）に市指定有形文化財になっています。

妙光寺の寺宝には土佐絵二幅対（絵画）、日蓮上人座像（彫刻）、法華三昧堂額（彫刻）、総蒔絵硯箱（工芸品）、総合蒔絵法衣箱（工芸品）、経筒（工芸品）、日蓮上人御真筆（書跡）、日門上人御真筆（書跡）、日蓮上人御消息真筆断（書跡）、徳川光圀書簡1通（書跡）、紺紙金泥法華経1部開結（書跡）、日輪上人御真筆（書跡）などがありそれぞれ市指定文化財になっています。

又、境内にはカヤの大木があり市指定天然記念物になっています。



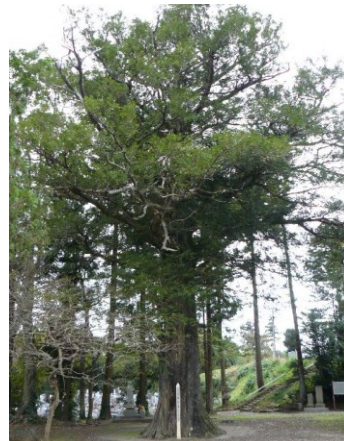
石柱山門と山門



本堂



法華三昧堂



カヤの木

（２）文殊院

創建は不祥ですが、隣接する大生神社の神宮寺だった寺院で大生山神宮寺文殊院と称しています。大生神社は奈良時代に創建した古社で、古代当地を支配したオフ一族と関係が深いとも、鹿島神宮の本宮ともいわれているため、文殊院も格式が高かったことが窺えます。観音堂の本尊である十一面観音菩薩像は行方坂東三十四観音霊場第二十一番札所（御詠歌：おふらかに 浮身のかめと 思わひて 仏のみ法 いつも忘れじ）として信仰を集めています。

境内には阿弥陀堂、観音堂、地藏堂、の３棟が一行に並んでいて阿弥陀堂内部には寛文５年（１６６５年）建立の逗子が、観音堂内部には元禄１１年（１６９８年）に建立の宮殿が安置されています。

阿弥陀堂は寛文５年に建てられた桁間３間、梁間３間、宝形造、金属板葺。

観音堂は貞享年間（１６８４～１６８８年）に建てられた桁行３間、梁間３間、宝形造、金属板葺。

地藏堂は江戸時代中期に建てられた桁行１間、梁間１間、宝形造、金属板葺です。

共に江戸時代前期から中期の御堂建築の特徴がある建物として貴重なことから平成５年（１９９３年）に市指定有形文化財になっています。

現在は牛堀堀之内にある天台宗二本松寺の末寺になっています。



石柱山門と堂宇（左から阿弥陀堂、観音堂、地藏堂）